

A Shorter Course in



BETTER COMMUNICATION

5分間 英語 コミュニケーション

Masayuki Sekine



N A N ' U N - D O

A Shorter Course
in
Better Communication

© Copyright 1995
by
Nan'un-do Co, Ltd.

＝ [リスニング || リーディングの力がつく] ＝

『5 分間英語コミュニケーション』

A SHORTER COURSE IN BETTER COMMUNICATION

カセット・テープ

(全 2 巻)

● 収録箇所 ●

テキストの関連練習・練習問題が収録されています。

お近くの書店へご注文のうえ、お買い求め下さい。

南雲堂

☎ 03-3268-2311

本書の構成と利用法

周知のように世界がますます狭くなり、国の内外において外国人との接触がしげくなるにつれ、私たち日本人に大きく求められるのは、英語による彼らとのコミュニケーションの能力をよりいっそう高めることです。しかし残念ながら、日本人のコミュニケーションのための英語力は、未だその最低要求水準‘minimum requirements level’にも達していないと言われていました。そこには数々の原因、理由があげられますが、コミュニケーションの実際面における第一の問題点は、言語活動の前提条件である「聴き取り能力」にあると言えます。

そこで、本書『5分間英語コミュニケーション』は、まず私たち日本人にとって聴き取り面での‘trouble spot’に焦点をあて、その解消のため、とくに必要とされる音声学上の諸事項を提示し、演習形式によりリスニング、スピーキング両面の基礎的能力の涵養を図ります。またさらに現代英米をはじめ、英語圏のいろいろな話し言葉を学習することにより、学生諸君の英語による‘communication skill’の着実な向上を、本書は目指します。

本書、Part 1「英語の音声」は、言語の最小単位である音節にはじまり、単語のストレス、センテンス・ストレス、英語発音の特色である強形、弱形発音、さらに縮約形、音の連鎖と同化、リズム、イントネーション等、音声学上の説明と練習から成っています。これらはすべて英語を聴く、話すうえでの必須事項ですが、このPartは学習者が単に各事項を理解するだけでなく、自分自身、コミュニケーションの場において十分に運用できるよう、その習熟を期します。

Part 2「口語英語いろいろ」では、日常生活に不可欠な数量表現をはじめ、ひろく放送の英語、会話、英米、オーストラリア、カナダ人とのインタビュー、ドラマ、スピーチ、大学での講義などを、全部で19課に収めました。各課は必要と思われる聴解または予備知識のための解説と、それに続く本文あるいは練習のための文から成っています。それらは内容的にいずれも、学習者の一般的興味、さらに知的興味をそそるものを精選してあります。なお学習者は教材テープに収録された広い階層にわたる数々の英語話者の音声言語に耳を慣らすことにより、学習の過程においても、各自、実際に外国人に接した場合、彼らとのより効果的なコミュニケーションの実を挙げることが期待されます。

本書の上梓にあたり、南雲堂教科書編集部、奥富英之氏および Jim Knudsen 氏にいろいろお世話になりました。ここに記して感謝の意を表します。

〔注〕 本書使用に際して：

本書は、Pt.1,2ともに別巻テープを使用して、学習が進められます。したがって、各課に記された指示はすべて、テープにより実施することになります。

関根 応之

CONTENTS

本書の構成と利用法	3	PART 2: Varieties of Spoken English	25
PART 1: Sounds of English	5	(口語英語いろいろ)	
(英語の音声)		20. 数量(1)加減乗除	26
1. 音節と分節法	6	21. 数量(2)日常表現	27
2. 単語のストレス(1)	7	22. 天気予報	28
3. 単語のストレス(2)通則	8	23. 放送ニュース英語の聴き方	29
4. センテンス・ストレス(1)内容語	9	24. ヒューマン・インタレスト・ニュース	30
5. センテンス・ストレス(2)機能語	10	25. 新聞英語と放送英語	31
6. 語群のストレス —原則—	11	26. 初めての英会話	32
7. センテンス・ストレス	12	27. キャンパス・ミニ会話(1)	33
—主要ルール—		28. キャンパス・ミニ会話(2)	34
8. 強形・弱形発音	13	29. 友人との会話	35
9. 縮約形	14	30. 米国女子高生とともに	36
10. 音の連鎖(1)	15	31. ケンブリッジ大学・ラグビー 選手とのインタビュー	37
(語末子音)—(語頭母音)		32. 「英語」に関する 質問・応答	38
11. 音の連鎖(2)	16	33. ラジオドラマ“Unshackled!”	39
(語末子音)—(語頭子音)		—抜粋—	
12. 音の同化	17	34. 心理学講義	40
13. リズム	18	35. 米国大統領就任演説(1)	41
14. イントネーションとは?	19	—抜粋—	
15. イントネーションの基本形(1)	20	36. 米国大統領就任演説(2)	42
下降調と上昇調		—抜粋—	
16. イントネーションの基本形(2)	21	37. 歴史に残る大ニュース	43
その他の音調		38. エリザベス女王スピーチ	44
17. 弾音の [t]	22	—抜粋—	
18. くだけた英語発音	23	NOTES	45
19. 英米の発音(母音)比較・対照	24		

PART 1

SOUNDS OF ENGLISH

(英語の音声)



——発声法について：留意事項——

- a. 背骨をまっすぐにし、姿勢をただすと、十分な、よりよい音声ができます。
- b. 腹式呼吸法により、胸の奥まで空気を吸い、そこから呼気を送ると声帯がよく振動します。
- c. 発声の際、心もち顎を下げたほうが、呼気が硬口蓋に突きあたらず、声が抵抗なく出て効果的です。

1

音節と分節法

音節はその前後に切れ目があって、1つに感じられる連音です。それは1つ、または2つ以上の単音から成り立ち、言語の最小の音声単位となっています。音節の中心をなすのは母音で、子音より「聞こえ」が大了。例えば、story[stɔ:ri]の場合、ccv・cvの配列ですが、母音が音節の中核となり、2音節語としてsto・ryのようにoとrの境で音節が切れま
す。
*(c=子音, v=母音)

〔I〕 次は分節の仕方の概則です。音節の切れ目に注意して各単語を発音しましょう。

- A. 接頭辞(Prefix)・接尾辞(Suffix)は、語幹(Root)から分ける。
a-way, un-kind, pre-sent, de-scend / found-er, hope-less, jump-
ing
- B. 並列する母音の場合、それらが長母音、二重母音でない限り、普通、分ける。
cre-ate, ru-in, li-on, sci-ence, o-ri-ent, co-op-er-ate
- C. 複合語(Compound Word)はそれを構成する元の語に分ける。
rail-way, sun-burned, school-house, class-mate, sub-way,
earth-quake
- D. ストレスのある長母音または二重母音と、続く子音とは分けられる。
au-thor, mu-sic, Je-sus, se-cret, pa-per, mo-tor, he-ro, toi-let
- E. ストレスのある短母音は、ふつう次の子音と結合する。
hab-it, pic-ture, kid-ney, wom-an, cam-el, lim-it, No-vem-ber
(例外) spe-cial, con-di-tion, pre-cious, cou-ple, tri-ple, etc.
- F. 2つの母音間にある2つ以上の子音字が続いているときは、第1子音字のあとで分ける。
un-der-stand, poc-ket, in-spect, ob-scure, on-ward, part-ner
- G. 重子音‘-mm-, -nn-, etc.’は発音は1つであるが、綴りでは普通、2つに分ける。
com-mon, sum-mer, com-mit-tee, gram-mar, run-ning, sud-den
- H. 語末の‘-el, -le, -en’は、単独で、または直前の子音字と結んで1音節(いわゆる音節子音)を作る。
nov-el, trav-el, lev-el / bot-tle, shut-tle, pos-si-ble /
giv-en, sof-ten, sud-den

〔II〕 次の単語を分節しなさい。

1. unfriendly 2. inkpot 3. liquid 4. golden 5. penalty 6. suggest
7. mother 8. violin 9. tackle 10. angry 11. father 12. above

2

単語のストレス (1)

英語ではすべて2音節以上の単語にはいずれか1つの音節にストレス(またはアクセント、強勢)がおかれます。たとえば、listening は第1音節のlisten-に、advice は第2音節の-vice に強勢があります。また3音節以上の語には1次強勢、2次強勢をもつものがあります。単語を発音する際、誤った位置に強勢をおくとその機能を果たさず、相手に理解されないこととなります。

強勢はふつう、1次強勢を[´]、2次強勢を[˘]として示します。

〔I〕 次の各グループの単語において、ストレスのある音節とストレスのない音節の母音に特に注意し、リズムをつけて発音しましょう。

- A. 1-2̂ 1. dinner 2. modern 3. palace 4. spoken
B. 1-2̂ 1. advice 2. distinct 3. enjoy 4. invent
C. 1-2-3 1. absolute 2. eloquence 3. innocence 4. origin
D. 1-2̂-3 1. advantage 2. denial 3. informal 4. triumphant
E. 1-2-3̂ 1. afternoon 2. interfere 3. recommend 4. volunteer
F. 1-2-3-4 1. accuracy 2. momentary 3. profitable 4. testimony
G. 1-2̂-3-4 1. ability 2. ambiguous 3. behavior 4. remarkable
H. 1-2-3̂-4-5 1. anniversary 2. indeterminate 3. mathematical
I. 1-2̂-3-4-5 1. pronunciation 2. deliberation 3. communication

〔II〕 テープを聴き、次の各組の単語にストレス、マークをつけ、その品詞と意味を言いなさい。

1. 1) compact, compact 2) minute, minute 3) instinct, instinct
2. 1) separate, separate 2) desert, desert 3) record, record
3. 1) serene, serenity 2) line, linear 3) sign, signature
4. 1) induce, induction 2) wild, wilderness 3) profound, profundity
5. 1) photograph, photographic, photography
2) democrat, democratic, democracy
6. 1) economy, economic, economist
2) demonstrate, demonstration, demonstrative